

平成24年度 前期 自己評価

No.	評価内容	23前	23後	24前	比較	成果や課題, 意見等
教育目標計画	あなたは、学校の教育目標や教育課題、教育計画について、よく理解していますか。	3.3	3.2	3.3	➡	
	教育目標は、生徒や地域の実態にあったもので、具体的で実践可能なものですか。	3.6	3.4	3.3	➡	
	学校は、教育目標の具現化に向け、教育課程の編成、指導計画の作成等を工夫していますか。	3.2	2.9	3.0	➡	耐震工事影響も多少あったが、無理をしてしまった。学力向上を目指しているが、行事等で忙しすぎると思う。
	学年・学級は、学校教育目標を踏まえ、学年・学級の実態に合わせて目標を設定していますか。	3.2	3.2	3.2	➡	「四つの約束」の「聴く」が全然できていない。そこに到達するまでの段階をもっとふまえないとためなのかも・・・。
教育課程学習指導	学校は、授業時数の確保に努めるとともに、日課表・時程等は、生徒が学校生活を充実させるために創意工夫されていますか。	3.1	2.7	3.2	➡	放課後もなく忙しい。教科会議などももっと開きたい。
	学校は、年間の学習指導計画を生徒の実態に応じて、各学年・各教科でよく話し合い、常に評価・改善を行っていますか。	2.7	2.7	2.7	➡	年間計画が切り替え時なので仕方ないのかもしれないが、指導計画作成が遅れた教科があった。学年会議が持てない状況を変えたい。話し合う時間がほしい。
	学校は、各教科の指導内容について、基礎的・基本的事項を明確にし、教科の精選・工夫を行っていますか。	3.0	2.8	3.1	➡	
	学校は、チーム・ティーチングや少人数指導等、指導法の工夫・改善を行っていますか。	3.2	3.0	3.0	➡	抜き出しやフラワーなどを活用しているが、職員、子どもに無理のないように実施したい。英・数など習熟度コースを取り入れてはどうか。集団学習やグループ学習などを目指したらどうか。
	あなたは、学習に対する生徒の興味・関心・意欲を喚起し、生徒主体の学習活動への工夫・改善に努めていますか。	3.0	3.2	3.2	➡	
	学校は、学習の遅れがちな生徒への対策を、全校的な課題として取り組んでいますか。	2.5	2.7	3.0	➡	今年度はフラワールームの活用がよくできていると思う。
学校行事	学校行事は、学校の教育目標が達成できる特色ある内容になっていますか。	3.0	3.1	3.0	➡	
	学校は、学校行事を、生徒にとって魅力あるものとするために、常に工夫・改善を行っていますか。	3.0	3.0	2.9	➡	学校の実態、地域との連携など、課題となっていることを解消し行事の精選を図りたい。生徒の意識の低い行事がある。
	学校行事は、授業時数の確保の観点から精選されていますか。	2.5	2.3	2.7	➡	例年と同じパターンになっているのが気になる。行事や総合が多すぎるのではないかな。
四つの	「四つの約束」は、本校の課題として適切な事項が選ばれ、保護者や生徒にも良く伝えられていますか。	3.6	3.6	3.6	➡	適切な目標であるが、伝えきれているか。どこまでを基準にするかは個人の判断であるが、あいさつ・清掃はまだまだできると思う。
	生徒は、誰にでも気持ちよくあいさつを行うことができますか。	2.5	2.4	2.7	➡	もっとできるはず。少しずつよくなっているのでは・・・
	生徒は、一生懸命清掃に取り組むことができますか。	2.7	2.5	2.3	➡	取り組んでいる者とそうでない者の差が大きい。指導しているが、一生懸命とはならない現状である。

約束生徒指導	生徒は、時間を守ろうと意識をして行動することができますか。	2.8	3.1	2.5		チャイムが鳴っていないがそれなりに動いている。このままノーチャイムでも良いのでは。時計は見ているが、止まって動かない時計がある。呼びかけてはいるが、意識が低く、チャイムが必要か。
	生徒は、誰の話もよく聴くことができていますか。	2.6	2.5	2.4		ふりはできていても中に入っていない時もある。
	学校の教育相談体制が整備されており、一人一人の実態を確実に把握しながら、カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導を行っていますか。	3.0	2.8	2.8		生徒指導体制を再構築すると良い。
	いじめ・不登校等の問題が起きたとき、報告・連絡・相談を踏まえて組織的に対応できる体制が整っていますか。	2.9	3.0	2.9		
道徳教育特別活動	学校は、生徒の実態に基づき、道徳教育全体計画、年間指導計画や学級における指導計画を作成していますか。	2.9	3.0	3.0		年間計画が整備されていなかった。
	学校は、年間指導計画に基づき、道徳教育の時間を中心に、総合的に道徳教育を行っていますか。	3.2	3.2	2.7		
	学校は、道徳教育の目標達成のため、道徳教育と各教科の指導との関連を図ったりしていますか。	2.7	2.4	2.6		
	学校は、生徒の学校生活の向上・充実をめざし、当面する諸課題を解決するための学級活動を行っていますか。	2.8	3.0	2.8		学級会を開く時間がなかなかとれない。年間計画をこなしているだけになっていないか。最低限のことはやっているが...
	生徒会活動は教師の指導の下で、学校生活の充実・改善・向上・諸問題の解決等に関して自主的・実践的に行っていますか。	2.9	2.9	2.8		時間が足りないと思う。
特別支援教育	学校は、教職員が障害に関する理解を深め、特別な教育的ニーズを必要とする生徒に気づき、全体で協力して指導・支援する体制をとっていますか。	3.0	3.3	3.1		
	学校は、支援を必要としている生徒への対応を共通理解し、個別の教育支援計画を作成し支援を実施していますか。	2.7	3.2	3.1		
	学校は、生徒が障害に関する認識を深め、共に生きることの大切さを共感・共有し、実践できる力を育成していますか。	2.8	3.0	3.0		共に生きることの大切さを共感、共有し実践できる力を育てたい。
経営組織	学校は、教育課題を明確に持ち、めざす生徒像をはっきりと持っていますか。	3.6	3.2	3.0		
	校内の報告・連絡・相談の連携がスムーズに機能していますか。	3.1	3.0	2.8		学年会議をもっと設けてほしい。学年内の連携が主任任せになっている。もっと情報が入りやすく。
	学校は、会議の目的、報告・協議内容をはっきりさせ、能率的かつ円滑に進めていますか。	3.3	2.9	2.9		企画会議が企画になっていない時もあり、学習や研修の会議も少ないと感じる。
	問題意識や悩みについて、気軽に話し合えるような職場の人間関係ができていますか。	3.1	2.8	3.1		共有する時間が少ないと感じる。学年間の差が...
	研究・研修は職員の共通理解のもと、積極的に推進されていますか。	3.0	3.0	2.9		温度差を感じることもある。共通理解が十分でない。
	教職員の服務規律への自覚は高いですか。	3.1	3.0	3.2		生徒に指導したことは、職員としても実行していきたいと思う。

施設設備	教材・教具等を有効に使用し、使用後の整理や保管を適切にしていますか。	3.0	2.9	2.9	➡	
	校舎内外の施設・設備の点検を定期的に行い、適切な安全管理をしていますか。	3.3	3.3	3.4	➡	
	教室等を学習活動及び心地良い居場所のための環境として整備していますか。	3.1	3.0	3.0	➡	教室環境の学級間の差があり気になる。
地域との連携	学校は、保護者や地域の人々と接する機会を十分に持ち、地域の活動に協力的ですか。	3.4	3.6	3.4	➡	学校全体でというとな難しい。
	学校は、近隣の学校等との校種間連携の機会を設け、教育活動全般に生かしていますか。	3.1	3.2	3.2	➡	相互の授業参観をしたい。 幼稚園の運動会ボランティアや夏休みのキャンプ等よく活動している。 もう少し踏み込んでいきたい。
	学校は、地域の人材を、教育活動に生かしていますか。	3.2	3.1	3.4	➡	佐倉学や職場体験で協力して下さる。
	学校は、よりよい教育活動を行うため、学校評議員制度を利用していますか。	3.5	2.9	3.2	➡	
	学校は、学校の教育目標の具現化に向けて、PTAと各種関係機関との連携・協力を進めていますか。	3.4	3.2	3.2	➡	でもまだ説明不足か。
保健安全	学校は、保健・食育指導を通して、生徒が自分の体を健康に維持するよう習慣化していますか。(規則正しい生活をしていますか)	3.3	3.0	3.0	➡	給食を食べる時間15分は短い。ゆっくりと食べる時間を与えてあげたい。
	生徒の心身の健康に関する指導を、養護教諭・生徒指導主事・保健主事・SC等の連携により日常的に行っていますか。	3.4	3.1	3.1	➡	スクールカウンセラーと研修する機会を設けたい。
	学校は、学校事故に対する対策を十分に行い、万一災害・事故等が発生した場合、迅速で組織的な対応についての共通理解が教職員に得られていますか。	3.0	3.0	2.9	➡	共通理解という点でやや弱いと感じる。 話し合う場が少ないと思われる。
	学校は、施設設備について、日常的な点検や適正な管理を行っていますか。	3.3	3.3	3.3	➡	
		3.1	3.0	3.0		

学校経営全体に係わる課題や意見

行事の精選も含めて、仕事も簡略化または削っていく必要がある。また、部活動も多い。教師側に心にゆとりがないと良いものは生まれない。

生徒数に比べて部活動が多い。特に女子の数が少ないので検討すべき課題です。

さらにカリキュラムを検討していく上で個別の組織の話し合いが必要ではないか。

小中連携については、どこに課題の中心を置くのか、そして誰が中心になるのか曖昧である。